

アイソトープ

アイソトープ検査は核医学検査や RI 検査とも呼ばれ、微量な放射線を出す放射性物質（ラジオアイソトープ）を体内に投与し、臓器や体内組織などに集まる様子を外側から特殊なカメラで画像化します。

CT 検査や MRI 検査などは、精度が良い形態的な情報を得ることが出来るのに対し、アイソトープ検査では血流や代謝などの機能的な変化を画像情報として得ることが出来、SPECT（スペクト）検査により、目的とした臓器などへの放射性物質の分布を 3 次元的に撮像し、断層画像として出力できます。

当院では、骨シンチ、心筋シンチ、脳血流シンチなどが可能です。

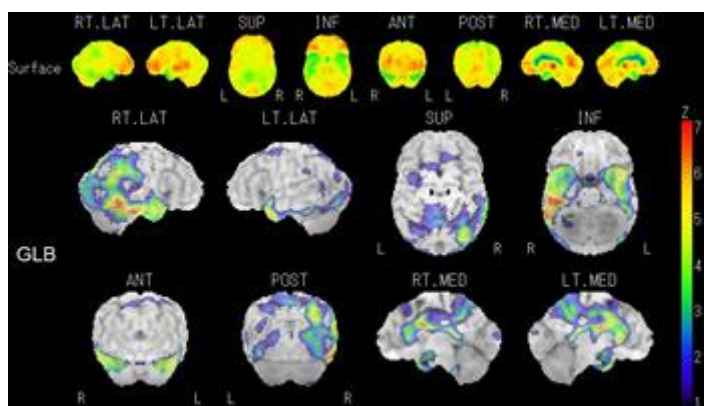
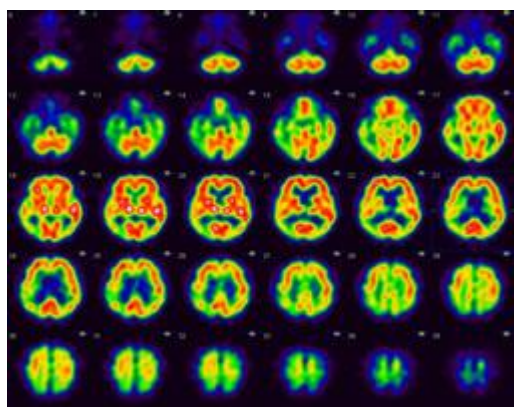
以下の場合、申し訳ありませんが対応できません。

- ① 小学生以下の患者様
- ② 脳血流 ARG 定量、脳血流ダイアモックス負荷、脳室脳槽（脊髓腔）
- ③ PET 検査

脳血流シンチグラフィ

脳の血流状態を画像化して、脳の機能異常を診るために行われます。脳梗塞や認知症の早期発見や脳梗塞における治療の適応、治療効果の判定などに有用です。検査時間は 1 時間程度で、特に検査前の処置は必要ありません。

アルツハイマー型認知症やレビー小体認知症など、特異的に血流低下が表れる領域を統計学的解析ソフトを使い、画像と表し認知症の診断を行なうことができます。正常な人と比べて血流が有意に低下している部位に色がつきます。右のスケールで上の色になるほど（赤いところが最も）血流が低下しています。



心筋血流シンチグラフィ

血液が心筋各部位へ正常に流れているかを診る検査です。心筋梗塞や狭心症などの早期発見や治療経過を知るのに有用です。午前中に自転車をこいだり、運動が無理な方は薬により心臓に負荷をかけた状態で検査を行なう負荷検査と、午後から安静時の検査それぞれ一回ずつ撮像します。当院ではテトロホスミンという薬を使い、心電図同期で撮像を行います。検査時間は、それぞれ約一時間です。

骨シンチグラフィ

この検査は、腫瘍の骨への転移や骨の炎症、X 線では写らない骨折の診断に有用です。

検査は薬を注射し、3～4 時間後に撮影を行います。検査時間は 30 分～1 時間程度です。